

(様式1)

平成25年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	1 自主的精神に充ち、謙虚に学んで豊かな教養を身につけた人間を育成する。 2 個人の価値を尊び、敬愛の念をもち、協調性に富む人間を育成する。 3 常に全体の一員であるという自覚をもち、責任と恩義を重んずる人間を育成する。 4 心身の健全なる発達を図り、公正なる判断力を養い、己の道に徹し、進んで実行する人間を育成する。
------------	--

(2) 現状と課題	1 本校は、上級学校進学率が8割を超す県内有数の進学校であるが、地域社会を牽引するリーダーの育成や医師不足対策など、県が抱える課題を克服するために、難関大学及び医学部医学科等への合格者増が期待されている一方で、生徒一人一人が自らの夢を実現させるべく主体的に学習に取り組めるように指導体制の充実が求められている。 2 スーパーサイエンスハイスクール(SSH)基礎枠の事業においては、これまで多くの成果を上げてきたが、今年度に第2期指定4年目を迎え、より一層事業の改善・充実を図る取り組みが求められているとともに、新たに指定を受けた科学技術人材育成重点枠事業においても地域の理数教育の拠点校として積極的な取り組みを行うことが求められている。
-----------	---

(3) 重点目標	1 学習指導の充実
	2 生徒指導の拡充及び心身の健康保持
	3 進路指導の充実
	4 SSH事業の推進

(4) 結果の公表	学校ホームページ上で公表する他、次年度のPTA総会で報告する。
-----------	---------------------------------

学校整理番号	14
学 校 名	青森県立八戸北高等学校
全日制課程	本校 校舎 ・ 分校

自己評価実施日	平成26年 2月19日(水)
学校関係者評価実施日	平成26年 2月20日(木)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
学校評議員 2 名、保護者 (P T A副会長 3 名) 3 名 計 5 名

自 己 評 価				学校関係者評価	(10)次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	
1	基本的学習態度の育成と学習指導方法の工夫及び研究の推進	・生徒の学習状況を把握し、各教科・学年と連携しながら、授業への積極的な参加、学習の習慣化を促し、個に応じた学習指導を徹底させる。 ・授業時数の確保とともに自習のない完全授業を目指す。 ・授業内容の充実を図るため、授業の工夫や教材の研究や開発に取り組む。また、年間を通して研究授業、授業公開、相互参観授業を実施しながら、教師としての力量を高めよう。	・定期考査後の成績会議で結果分析を行い、学年・教科と連携しながら、対策を考えたり、個々の生徒にも対応した。 ・授業時数の確保について、課題学習による自習時間は教員間での協力体制により最小限に抑えられ、完全授業は概ね達成することができた。 ・各教科で、研究授業、授業公開、相互参観授業を実施したり、先進校視察、予備校研修等を行い、指導法の研究を進めてきた。また授業改善に繋げるよう、授業アンケートを実施した。	B	・学校評価に係る会議や授業アンケート等が、生徒の指導への改善に繋がることを期待したい。 ・高校に入学して子供が本を読むようになる場合もある。読書は学力の基礎・土台になる。1年生のうちから本を読むことの大切さを指導していただきたい。 ・本校読書会に参加しており、大人たちがどういう本を読み、どのような感想を持つのか、冊子にまとめてある。作成した冊子を図書室に置いて、生徒たちが見えるような環境を作っていただきたい。
	教育課程の研究・編成及び観点別評価に関する各種研修等の企画運営及び情報提供	・教科主任会議や学力向上委員会を中心に、新学習指導要領に対応した、より効果的な教育課程の編成作業に取り組む。 ・観点別評価を中心とした評価方法の工夫改善を目指す。	・教科主任会議を中心として新しい学習指導要領に合わせながら、学校の実情、生徒の実態を踏まえた教育課程の編成を行った。 ・教科主任会議を通じて、観点別評価に関する情報提供を行い、授業及び評価方法の改善を図った。	B	
2	基本的生活習慣の確立と生徒の安全確保	・年間を通して登校指導を実施する。 ・全校一斉に服装指導を実施する。 ・安全確保についての様々な情報提供と啓発に努める。 ・いじめ問題の未然防止に努める。	・登校指導については、平常時は具体的指導項目を決め、職員割り当てに従って実施し、保護者及び生徒会も含めた特別登校指導は年3回実施した。 ・服装指導については、全校一斉に前・後期末考査終了後に指導教員の役割分担と具体的指導項目を決めて実施したが、実施方法、普段からの服装指導の兼ね合い等が今後の課題である。 ・交通安全意識については、外部講師による交通安全教室の実施、自転車通学生生への講義、ポスター掲示による啓発を図り、改善は見られるが、意識づけが徹底されているレベルには至っていない。 ・いじめについては、拡大生徒指導部会議の開催や年3回のアンケート調査等での情報交換を通じて早期発見・未然防止に努めた。	B	・いじめ問題未然防止のためのアンケート調査で、気になる生徒がいた場合、早期の情報交換、早期の対応をしていただきたい。 ・ツイッターや携帯電話での誹謗中傷については、生徒自らが絶対にしないという気持ちを持てるような指導をしていただきたい。 ・登校時に、生徒の方から積極的に朝の挨拶ができるように指導していただきたい。また朝の一声運動については教員が一丸となって取り組むことが必要と思われる。 ・学力上位、部活動レギュラーといった生徒でない者に対して、より一層重点的な指導をしていただきたい。強い気持ちを持った生徒は多いわけではない。大きな場面での経験が不足しており、そのような場合での対応力養成の指導をしていただきたい。
	心身共に健康な生徒の育成	・問題を抱える生徒については個別に慎重な対応を心がけ、生徒指導上の問題については、生徒指導会議やカウンセリング委員会を通じて、学年・関係分掌等と連携し、組織的に対応する。 ・保健だより等による情報提供を通じて、心身の自己健康管理の啓発を図る。	・保健来室者へは詳細な問診を行い、悩みや相談に対応するとともに、問題を抱える生徒には学年・保護者・関係分掌等と連携し、組織的に対応するように努めた。 ・毎月発行の保健だよりは内容を精選し、充実させるように努めた。	A	・「登校指導、服装指導等については、生徒指導部が先頭になって、各分掌と連携を取りながら、日頃から指導を徹底させていく。 ・不審者情報については、これまで以上に関係機関からの協力を得ながら、効果的な未然の被害防止策を考えていきたい。交通安全教育については、集会やHR等で注意を促し、生命尊重と交通ルール・マナー遵守の指導に当たる。 ・いじめ防止対策については、「学校いじめ防止基本方針」を策定するとともに、「いじめ問題への対策のための組織」を設置し、いじめ問題に対して学校全体で対応する体制づくりを行う。
3	継続的に進路実績を生み出す進路指導システムの構築	・進路指導についての問題点、目標、情報、意識等の共有化に向けて、システム改善の提案や先進校の取り組み等の情報提供に努める。 ・「難関大プロジェクト」を現3年生の取り組みをベースに振り返り、各学年と連携しながら、有効かつ具体的なプログラムへと深化させる。 ・推薦・AO入試対策として、難関大学のAO入試についての指導資料をストックし、本校独自の指標作成を目指し、過去の受験生のデータの収集、学力の分析を行う。	・進路システム改善のために種々の提案を行ってきた。また、大学の最新情報の提供に努めるとともに、研究会・説明会の報告書の作成を義務づけることで、学校全体に還元できるように配慮した。 ・難関大学のAO入試については、指導資料を収集し、整理・保管することとした。また難関大AO入試の指標作成については今後検討を行う予定である。 ・各学年・各教科とともに、講習・添削指導・講演会等、難関大対策にも意欲的に取り組んでおり、難関大合格者の安定した輩出は実現しているが、継続的に高い実績を生み出すレベルには至っていない。	B	・「アクティブラーニング」では生徒が主体的に動くことが大切である。SSHではもちろん実行されているが、他の学習活動においても、生徒が受け身でなく、自ら動けるように指導をしていただきたい。 ・子供はいるいるな大人と接して成長すると思われるので、担任以外の先生方と面談する機会も設定していただきたい。 ・進路指導において「教員同士の目線を合わせる」ことは必要なことと考える。また「教員自らが自分の殻を破る」という姿勢に共感するとともに、学校組織としての今後の活躍に期待したい。
	キャリア教育に根差した進路指導の推進と充実	・「アクティブラーニング」の紹介等、進路指導とキャリア教育のマッチングに向けた情報発信を行い、教員の意識高揚を図る。 ・1年生に対する種々の仕掛けを立案し、県の事業を有効活用し、早期に難関大への進学意識を高める。 ・各学年での二者面談の実施、1・2学年のPTA集会の年2回の開催を推進するとともに、保護者・生徒への適切な情報提供及び発信に努める。	・「アクティブラーニング」の教員研修を実施し、教科によっては先進校の学校視察を実施したが、実際の研修成果を活かした授業改善は今後の課題である。 ・県の事業を活用し、一年生対象の東大見学会、保護者対象の難関大講演会、生徒・保護者対象難関大本校OB講演会により、難関大への進学意識の啓発をすることができた。 ・二者面談は学年主導で計画的に行われ、1・2学年PTA集会も年2回開催された。進路情報については進路だよりやHP等を通して行った。	B	・「難関大プロジェクト」については、発足7年目を迎えたが、指導対象とする生徒の選出方法を見直す等、実質的に意味のあるプログラムへの変革が必要と考える。また、難関大AO入試の指標作成についても、資料収集を行いながら、継続審議し、次年度には青写真を提示したい。 ・SSH事業で既に進められている「アクティブラーニング」型授業を、教務部・SSH推進委員会等と連携して、研究授業として設定し、その手法を教員間で共有するように努めたい。 ・進路情報の提供及び発信について、担当者だけの負担にならないように、進路指導部内での分業化を検討したい。
4	SSH基礎枠及び重点枠の推進と成果の普及	・これまでの実績・反省点を踏まえ、基礎枠及び重点枠の事業が円滑に展開され、探究心・思考力・表現力等の育成において教育効果が最大限発揮されるように計画・運営する。 ・実施された事業に対する評価・検証を確に行うとともに、外部との交流を積極的に推進することにより、その成果の普及を図る。	・事業効果を十分に引き出すことができるように担当者間で事前に協議し、事業の実施形態の見直しを行った結果、いくつかの改善が見られた。 ・各事業に対する的確な評価・検証のために、アンケート項目の検討・変更を進めた。また、重点枠事業を通じて、地域の小・中学生、県内外の高校生との交流を深め、学校HPのSSH関係記事の更新頻度を高め、事業成果の普及に努めた。	A	・3年次の英語による学習成果発表会と2年次の日本語による生徒研究発表会に参加したが、他教科との連携等、校内の協力体制が機能していると感じた。 ・大学に進学した子供が、大学での或る実験は既にSSHで経験したものだったこと、実験機器がSSHの方が新しくったこと等を語っていた。また、進学中心の他の普通高校と比較して学習量に違いはないが、体験活動が多いことから、学習環境という面では恵まれていると感じている。 ・或る研究班の活躍が新聞に掲載されており、生き生きとした活動がなされているとずっと見てきた。学校の特色としてさらに充実させていきたい。
	校内支援体制の確立	・各事業について、校務運営委員会、拡大SSH推進委員会等を通じて、目的・内容の共通理解を図り、全教職員による協力体制を整える。	・定期的に拡大SSH推進委員会を開くことで、各事業への率直な意見を集約できた。また、今年度はSSH推進委員会の構成員が増えたことで、特に事業に関係する教科・学年と連携が取りやすくなり、円滑な運営が可能になった。	B	・各事業改善を継続し、研究開発全体の質を高める。特に、課題研究における仮説設定やデータの扱い方等について、統一した指導方針を確立したい。 ・報道機関を積極的に活用し、最新の情報発信に取り組む。また、重点枠事業における連携校の数を増やし、SSH事業成果の全体的な普及に努めたい。 ・校内において、各事業の目的・内容に関する早期の情報提供に努めたい。また、SSH事業への教職員の理解深化を目的とした校内研修の実施を検討したい。

(11) 総括	過去の卒業生たちが素晴らしい進路実績を残したことを受けて、同様の実績を残すような進学指導プログラムをいかにして構築するかが課題となっている中で、難関大志望者への指導効果が徐々に現れてきており、今後、さらなる指導体制の改善に努めたい。一方、今年度は部活動の活躍が目立ち、これまでの「壁」を乗り越えて素晴らしい結果を残した部がいくつかあり、学校活性化の一翼を担った。SSHについては、基礎枠と共に科学技術人材育成重点枠の指定を受け、SSH事業に質・量ともに厚みが増した1年だったが、校内の生徒研究発表会で最も優れていると評価された研究班が県内・東北地区の研究発表会で最優秀賞を受賞する等、対外的にも高い評価を受けるようになった。SSH事業で展開されている「アクティブラーニング」型の学習活動、恵まれた学習環境のメリットに対する認識を教職員間で共有し、よりよい学校運営の実現に向けた努力を今後も継続していきたい。
---------	---